

# info! ながさき

Information of Nagasaki Prefectural Education Center

発行日 平成27年8月28日(金)

特集

◇シリーズ「いじめを生まない学級・学校づくりを目指して2」

◇『授業を語り合うために』～「授業を磨く教師」に基づいた学習指導集～

## 「今求められる真の実践的指導力」

教育センターでは、教科・領域の指導はもとより、さまざまな研修において、「実践的指導力」を習得していくことを目的に研修講座を仕組んでいます。

ここでいう「実践的指導力」とは、指導の手順や方法等のマニュアル的な指導技術を身に付けることではありません。むしろ、そのような表層的な指導技術は、児童生徒の表情や言動の裏に潜む心を察することを疎かにしてしまう要因と考えています。

「実践的指導力」とは、

- ① 児童生徒の実態を細かく把握している。
- ② 指導事項が明確で、その指導技術がある。
- ③ 指導事項が身に付いたか、評価・改善ができる。
- ④ 児童生徒の表情や言動から、その心根を洞察し、適切に対応できる。

の4つの力を身に付けることだと考えます。



研修部長 梶山 和彦

これまでの研修は、②③の専門的な知見に偏っていたのではないかと反省しています。②③だけでは、うまくいかないことが多くなったように感じます。

真に使える「実践的指導力」にするためには、①④の力を強化することが大切だと考えます。

①の児童生徒の実態では、学びの履歴に加え、その子の家庭の様子、生活習慣や生活リズムの実態まで含めた把握が大切です。このことが不十分だと④の心の洞察と適切な対応にはつながらないのです。

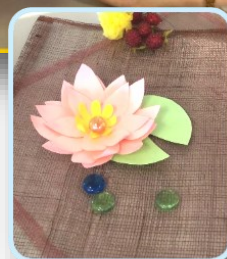
子供の学びの内鍵を開け、学びの自覚化へと導くことができる「実践的指導力」を身に付けた教師を目指していきましょう。

子供の息遣いを大切に。

このより道が 授業を変える

「教育資料」を先生方に貸し出します！

教育センターでは、「玖島の杜図書館（通称 くしまなび）」の教育資料や教育関係の図書を貸し出します。県内の先生方は、どなたでも御利用できます。授業づくりや学級経営など、参考になる教育資料を先生方御自身の研修に、または校内研修などに是非御活用ください。



- ・貸し出しは、一度に3冊までです。
- ・貸し出し期間は、2週間です。
- ・郵送でも返却できます。



玖島の杜図書館  
マスコットキャラクター

くっしー

場 所 / 教育センター本館3階  
開館時間 / 9:00～16:30

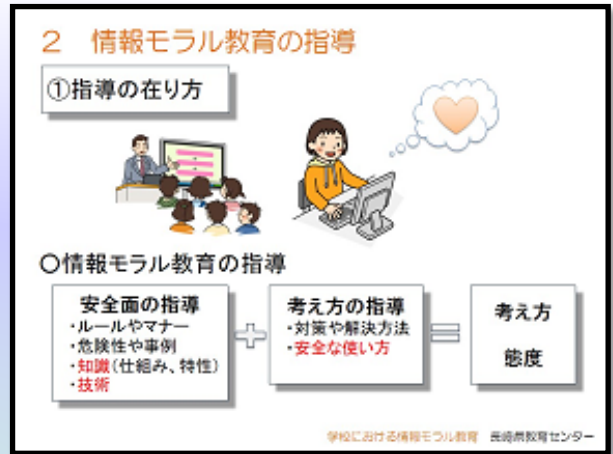
# 情報モラル教育を どうすすめるか

## 「トラブル事例を伝える」指導と「考えさせる」指導

「情報モラル教育」では、児童生徒がインターネット上でのコミュニケーションのトラブル等の被害に遭わないように、または、問題を起ささないようにするために、事例を伝えて、注意を促すことが大切な指導です。

加えて、トラブルを未然に防止したり、直面する問題に対してよりよい方法で解決したりすることができる「判断力」と「行動力」を身に付けさせることも必要な指導です。

そのためには、①「事例の紹介」と併せて、「マナーやインターネットの特性、情報に関する知識・技術を教える」指導とともに、題材となる事例を使って②「問題となるポイントやその理由」、「マナーや学んだ知識・技術を使った解決策の例」等を考えさせる指導が求められます。



考えさせる指導では、児童生徒同士で討論させるなど、「自分にも起きるかもしれない」と自覚させ、教師の一方的な教え込みの指導にならないように授業展開を工夫します。

児童生徒が、情報社会の危険性を知り、情報社会で適正に活動していくための基となる考え方と態度を育成することが情報モラル教育の目的です。



教育センターWebページ「校内研修活性化支援サイト」には、「教育のICT化を推進するための研修パッケージ」の一つとして、情報モラルのプレゼンテーションデータがあります。御利用ください。  
<http://wwwold.edu-c.pref.nagasaki.jp/kounaiken/tebiki.html#ICTpackage>



教育センターでは、塩田真吾先生を講師として「情報モラル公開講座」を開催します！塩田先生は、小・中学生向け情報モラル教材『楽しいコミュニケーションを考えよう！』をLINE株式会社と共同開発し、希望する学校に配付するなど、活躍をされています。

# 情報モラル公開講座

塩田 真吾（静岡大学教育学部 学校教育講座 准教授）

【略 歴】千葉大学教育学部卒業 学士（教育学）

千葉大学大学院教育学研究科カリキュラム開発専攻修了 修士（教育学）

早稲田大学大学院環境・エネルギー研究科博士後期課程修了 博士（学術）

千葉大学特任研究員、静岡大学教育学部講師、早稲田大学招聘研究員（併任）

を経て2015年4月から現職

【所属学会】日本教育工学会（2004年～）

コンピューター利用教育学会（2008年～）

日本創造学会（2010年～）他

【社会活動】静岡県青少年問題協議会 委員

静岡県ネット安全・安心協議会 委員長 他

- ・日時 平成28年1月5日（火） 13:00～16:00
- ・会場 長崎県教育センター 本館5階 大講堂
- ・定員 80名

※講演の後半は、塩田先生をコーディネーター、SNS関連会社と県内教職員をパネラーとしてお招きし、新春座談会を行います。

- ・申込 参加申込の方法は、後日配付する案内チラシ、または教育センターWebページ及びメールマガジンでお知らせします。

詳しくはWebで!

## 特別支援学級・通級指導教室の教育について

### 増える！特別支援学級・通級指導教室

現在、個々の違いを認め合い、様々な人が生き生きと活躍できる共生社会を目指して、障害のある子供もいない子供も共に学ぶインクルーシブ教育システムの構築が図られています。

右の図にあるように、小・中学校の児童生徒数は全国的にも減少しており、長崎県も同じような傾向です。一方で、特別支援学級、通級指導教室に在籍する児童生徒は、右肩上がりが増加し、特別支援学級や通級指導教室の数も増えてきています。

このような中で、一人一人の障害の状態や教育的ニーズを把握し、適切な指導や必要な支援を行う特別支援学級や通級指導教室の役割は、より一層重要になってきています。

### ますます重要！交流学級担任・在籍学級担任との連携！

特別支援学級では、少人数による一人一人の教育的ニーズに応じた適切な指導や必要な支援が行われています。また、多くの学校では、特別支援学級の子供が通常の学級で学ぶ、「交流及び共同学習」が日常的に行われています。

障害のある子供と障害のない子供と一緒に学ぶ「交流及び共同学習」では、相互のふれあいを通じて豊かな人間性を育むことを目的とする交流学習の側面と、教科等のねらいの達成を目的とする共同学習の側面との2つがあります。

障害のある子供と障害のない子供、一人一人の実態に応じて適切なねらいを設定し、活動の目的が達成できるように、交流学級の担任と特別支援学級の担任が連携を図ることがとても重要です。

また、通級指導教室では、ほとんどの授業を通常の学級で受けながら、週に数時間だけ、通級指導教室に通い、障害の状態に応じた特別な指導を受けています。そこで大切なのは、在籍学級での様子や課題、また通級指導教室での指導の現状や指導上の配慮事項などを伝え合うなどの連携です。

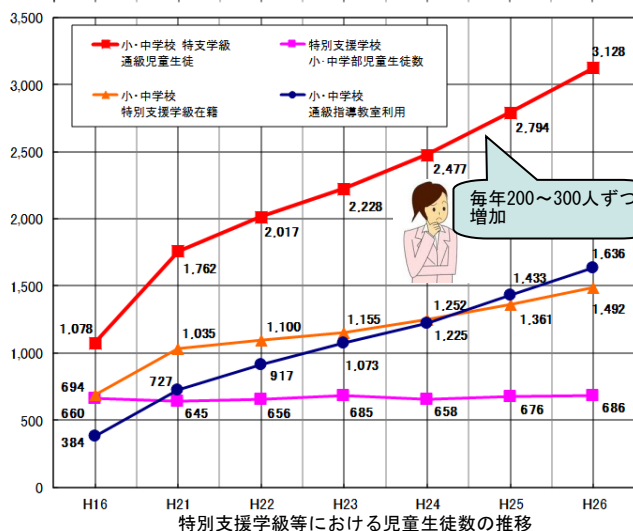
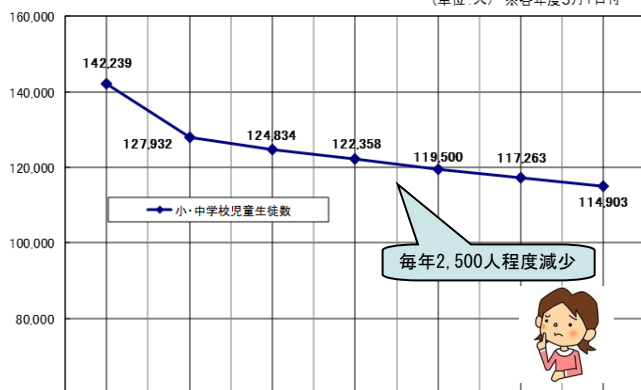
子供の確かな成長を促すためには、在籍学級担任と通級指導教室の担当者等との連携がとても大切であり、それを、学年や学校全体で共有するような学校の組織的な取組が求められています。



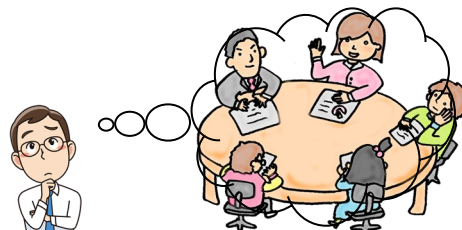
- ・いつ
- ・だれが
- ・どこで
- ・どのような指導・支援をする？



長崎県  
児童生徒数の推移(平成16年度及び平成21~26年度)  
(国立、私立を含む。)  
(単位:人) ※各年度5月1日付



・長崎県児童生徒数、特別支援学校・特別支援学級児童生徒数は長崎県教育委員会「学校一覧・教育統計」より  
・通級指導教室利用の児童生徒数は長崎県教育庁特別支援教室調査より



### あると便利！個別の教育支援計画

特別支援学級や通級指導教室の子供たちは、適切な支援で、大きく成長していきます。一人の子供を、みんなで見守り、成長を助ける役割を担う者同士の連携が大切です。そのためにも、子供の課題や目標、指導のねらいを共通理解するツールとして「個別の教育支援計画」を保護者も交えて作成し、活用することが有効です。

個別の教育支援計画の作成と活用を通じて、一貫した支援につないでいきましょう。

※次号では個別の教育支援計画について、詳しくお伝えします。

# 長崎県学力向上「活用教材」で確かめてみましょう！

教育センターでは思考力・判断力・表現力等の定着状況を確認する「活用教材」を開発し、県内の学校に広く提供しています。

- 小・中学校における各授業のねらいの定着状況を確認するために
- 国や県の学力調査結果から把握した課題の改善状況を確認するために
- 高等学校において義務教育段階の学習内容の定着状況を確認するために

教育センターWebページ

このボタンを

**クリック**

## 小学校算数の問題例

ひろみさん、つよしさん、りょうへいさんの3人は「 $6 \times 70$ 」の計算の仕方について考えています。あとの問題に答えましょう。

ひろみさん



$6 \times 70$ は筆算で計算すると、答えが出せます。

つよしさん、りょうへいさん



$6 \times 7 = 42$ をもとにして計算すると、もっと簡単に答えが出せます。

そこで、つよしさんとりょうへいさんは、簡単な答えの出し方を次のように説明しました。

つよしさん

$$\begin{aligned} 6 \times 70 &= 6 \times (7 \times 10) \\ &= (6 \times 7) \times 10 \\ &= 42 \times 10 \\ &= 420 \end{aligned}$$

りょうへいさん

$6 \times 70$ の70は、 $7 \times 10$ と考えることができます。すると、 $6 \times 70$ の積は、 $6 \times 7$ の10倍の大きさになります。だから、積は42の10倍の420になります。

問題

$6 \times 28$ の積が168になることを説明します。つよしさん、りょうへいさんのどちらか一方の説明の仕方で、 $6 \times 28$ の積が168になることを、「 $6 \times 7 = 42$ 」をもとにして、式や言葉などを使って書きましょう。

10分間で解ける！

**あ！わかった！**

を引き出すための



**学力向上活用教材**

※パスワードは各学校の管理職にお問い合わせください。

**解答・指導事例つき  
で使いやすい！**

## 長崎県内教育研究所連盟「教育フォーラム」へのご案内

長崎県内教育研究所連盟は、講師に明星大学人文学部教授の小貴 悟先生をお迎えして、下記の日程で「教育フォーラム」を開催します。多数の皆様参加をお待ちしております。

【日 時】 平成28年1月22日(金) 9:45~16:00  
【会 場】 長崎ブリックホール 国際会議場  
【内 容】

<各研究機関による研究発表テーマ>

発表1 佐世保市教育センター

『数学的な表現力を高める算数・数学教育』

～「表す力」「まとめる力」「伝える力」の育成を通して～

発表2 長崎市教育研究所

『支援を必要とする子どもの視点に立った連携の在り方について(仮題)』

発表3 長崎県教育センター

『タブレットPC等の個別学習活用法の研究』

<講演> 『教育のユニバーサルデザインの視点を生かした通常学級における支援の在り方(仮題)』

明星大学人文学部 教授 小貴 悟 先生



小貴 悟先生

<小貴 悟先生 プロフィール>

明星大学人文学部心理学科教授。博士(教育学)。臨床心理士。

早稲田大学人間科学部卒業、東京学芸大学連合学校教育研究科修了。

明星大学人文学部心理・教育学科(心理学専修)専任講師、准教授を経て、平成26年4月より現職。

専門領域は、臨床心理学、特別支援教育(学習障害・心理アセスメント)。

大学では学校臨床心理学の専門家として、不登校・発達障害をはじめとする様々なつまずき(不適應)に対する援助の方法を研究している。

著書として、『説明文授業のユニバーサルデザイン』(東洋館出版社)、『通常学級での特別支援教育のスタンダード』(東京書籍)、『LD・ADHD・高機能自閉症へのライフスキルトレーニング』、『LD・ADHDへのソーシャルスキルトレーニング』(以上日本文化科学社)など多数。

※ 会の詳細及び申込方法につきましては、10月に長崎県教育センターより改めてお知らせいたします。

## 長崎県教育センター 総務課

センター通信 第17号

〒856-0834長崎県大村市玖島1丁目24-2

子どもたちのよい学習環境のために、教育関係機関との連携を深め、実効性のある事業推進をめざします。

電話 : 0957 (53) 1131  
FAX : 0957 (54) 0578

企画課  
電話 : 0957 (53) 1186  
FAX : 0957 (53) 1190

教科・経営研修課  
義務教育研修班  
電話 : 0957 (53) 1132  
FAX : 0957 (54) 6496

高校教育研修班

電話 : 0957 (54) 6341  
FAX : 0957 (54) 6496

特別支援教育研修班

電話 : 0957 (53) 1130  
FAX : 0957 (52) 9242

教育相談室

電話 : 0957 (52) 9241  
FAX : 0957 (52) 9242



Webページもご覧ください。

長崎県教育センター

検索

## シリーズ「いじめを生まない学級・学校づくりを目指して2」

前号では、年度初めに当教育センターから、県内全ての小・中・高等学校及び特別支援学校に配付した冊子「いじめを生まない学級・学校づくりを目指して～教職員の実践力を高める校内研修プログラム」を紹介しました。いじめを生まない学級・学校づくりのためには「児童生徒の望ましい人間関係づくり」が必要です。人間関係づくりには、構成的グループ・エンカウンターやソーシャルスキル教育等を朝の会や学級活動に取り入れて実施することが有効です。

前述の校内研修プログラムは、夏休み明けの学級ですぐに実践することが可能なものばかりです。詳しくは冊子の第Ⅱ部実践編に紹介していますので、ぜひ活用してください。

### 「『いじめの予防と対応』における校内研修会の在り方」地区別研修会のお知らせ

教職員が、いじめについての基本的な考え方を共通理解したり、いじめの予防と対応についての実践力の向上を図ったりすることを目指して、今年度と来年度の2年間にわたる地区別研修会を予定しています。

#### 期日及び会場

【長崎会場】午前：小学校 午後：中学校・高等学校・特別支援学校及び私立学校

期 日	会 場	場 所	対象市町
9 / 11 (金)	長崎会場 (午前・午後)	長崎大学教育学部 11 番講義室	長崎市
11 / 5 (木)	五島会場	五島市勤労福祉センター	五島市
11 / 25 (水)	対馬会場	峰地区公民館 2 階講堂	対馬市
12 / 1 (火)	平戸会場	たびら活性化施設研修室 1・2	平戸市・松浦市・佐々町
1 / 15 (金)	西海会場	西彼農村環境改善センター	西海市・長与町・時津町

#### 日程及び内容

12:30	13:00	13:10	14:50	15:00	16:10	16:25
受付	開会 10分	講義・演習 1 100分	休憩	講義 2 70分	研修報告・振り返り 閉会 15分	

【8:30 9:00 9:10 10:50 11:00 12:10 12:25】

※【 】長崎会場 午前の日程

※ 講義・演習 1 冊子「いじめを生まない学級・学校づくりを目指して」を活用した校内研修の在り方

※ 講義 2 関係機関との連携の在り方について

### 平成27年度 教育相談室 公開講座のお知らせ (Web情報390号を御覧ください)

教育センターで行われる研修講座の一部を公開いたします。ぜひ御参加ください。

#### 「保護者との関係づくり」研修講座



東京成徳大学 教授 田村節子 先生

日時 9月14日(月)9:45～12:00

内容 保護者とパートナーシップを築いていくための基本的な考え方とその方法について

申込み 8/24(月)～9/4(金)

#### 「不登校の予防と対応」研修講座



久留米大学 教授 門田光司 先生

日時 9月28日(月)9:45～12:00

内容 スクールソーシャルワーカーの立場から、アセスメントや専門機関との連携について

申込み 9/1(火)～9/15(火)

#### 「実践に学ぶ生徒指導」研修講座



兵庫県立大学 准教授 竹内和雄 先生

日時 10月7日(水) 9:45～12:00

内容 スマホなどの情報端末機器に絡んだ諸問題の理解とその指導の在り方や指導理論について

申込み 9/14(月)～9/29(火)

〈申込先〉 長崎県教育センター 教育相談室 TEL: 0957-52-9241

各学校で取りまとめ、電話でお申し込みください。

授業づくり  
や校内研修  
に御活用く  
ださい！

# 言語活動の充実① 『授業を語り合うために』

～「授業を磨く教師」に基づいた学習指導案集～

2015年  
3月完成

## 先生方のこんな悩みにお応えします！

Q1

校内研で研究授業をする際、言語活動を取り入れた指導方法が分からず困っています。

A1

言語活動を取り入れた指導法を学ぶことができます。身に付けさせたい力は何か、その力を付けるために最適な言語活動は何か、授業の中で児童生徒に力が付いたかを見とる手立てをどのように位置付けるのか等、具体的な方策を参考にしてください。

Q2

授業の中で、児童生徒の実態に応じた言語活動をどう位置付け、具体的な手立てをどのように仕組んでいけばいいのかわかっています。

A2

授業場面で、具体的な指導の手立てが分かるような記述になっています。特に、本時の展開の指導上の留意点には、児童生徒がつまずきそうな場面や予想される考え方から、どのような手立てを行っていくのか、具体的な記述がありますので参考にしてください。

この学習指導案集は、授業の中核に「言語活動」を位置付けながら、教師の投げかけ、子どもの意識の変容、学びの流れといった授業の描き方を、リーフレット『授業を磨く教師』を基にして例示しています。自らの授業をつくる力量を高めるため、お互いに授業について語り合い、授業を磨き合うために、どうぞ御活用ください。

## 実践事例案を御覧ください！

各教科毎に【学習指導案形式】を掲載していますので、書き方の基本も参考にしてください。

### 【 小学校実践事例案 】

**国語科**：単元名 「音読しておすすめの本を紹介しよう」  
～場面の様子と自分の感じたことがよく分かるように音読しよう～  
教材「白いぼうし」

**算数科**：単元名 「単位量当たりの大きさ」

1 単元全時間分の評価問題やワークシートを示しています。

**理科**：単元名 「ものの溶け方」

### 【 中学校実践事例案 】

**国語科**：単元名 「高校案内パンフレットを観点に沿って分析しよう！」  
～根拠を明確にして批評文を書く～  
教材「高校案内パンフレット」

単元を貫く言語活動として、高校案内パンフレットを客観的、分析的に読み、批評文を書く活動を設定しています。

**社会科**：単元名 「身近な地域の調査」

課題としている思考力を高める言語活動を設定しています。

**美術科**：単元名 「自然の表情」

**英語科**：単元名 「Power-Up Speaking4 電話②(伝言を受ける)」

複数技能の統合的な活用例を示しています。

単元を貫く言語活動として、おすすめの物語の気に入った部分を選んで音読し、内容の中心がよく分かるように音読する国語の能力を高めます。

## さっそく検索してみましょう！

①長崎県教育センターページから、「玖島の社」をクリック。

②ロケインパスは、先ず下で「管理」をお尋ねください。

今年度も実践事例を作成中です。次回は、理科における「言語活動の課題」を紹介する予定です。

# 学校改善・授業改善の推進【中学校編①】

～教科の壁を越え、全校で授業改善を図るために～

## 現状

さまざまな講座で、中学校の先生方の発言をお聞きしますと、次のような声が聞かれます。

1. 「授業研究会では、教科の壁があり、なかなか発言してもらえない。」
2. 「学校全体に共通する課題が設定しにくい。」

授業を  
変えたい！  
学校を  
変えたい！

## 目的

教科の壁を越え、全教科に共通した課題を改善するための授業をつくる。

1. 授業について共通の視点で語り合う。
2. 充実した授業研究会を行う。



学校課題の改善へ！

## 手立て

教科の壁を越えた議論を実現する校内研修を仕組みます！

- 1 全教科共通の課題を「言語活動の充実」から考える。

- 2 思考力・判断力・表現力に係る全教科の課題を洗い出し、共通点を見いだす。

- 3 全教科で課題改善に直結する単元を洗い出し、授業研究を全教科で相互に行う。



出前講座のようす

全職員で言語活動について勉強中です！

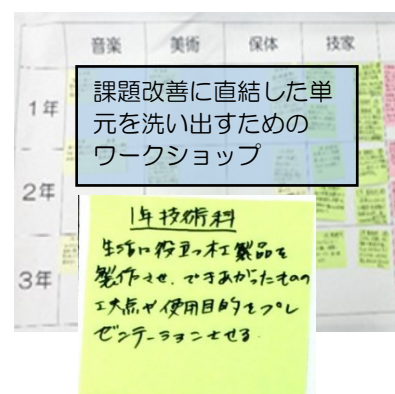
## 突破口に

共通の課題を見いだすために、最も効果的な方法が言語活動を充実させることです。しかし、各教科において言語活動が充実されているかという点決してそう言えないのが現状です。学習指導要領に明記されていますから、どの教科でも言語活動の充実を図らなければいけません。これを突破口にすると、教科の壁を越えて共通の課題を設定することが可能になります。



## 共通してできる

自校の課題を見いだすときに有効な方法は、全国学力・学習状況調査が毎年実施され、検証が行われている「国語科」と「数学科」の課題を利用することです。各学校において国語科と数学科の課題をヒントにすれば、全教科に共通する思考力・判断力・表現力に係る課題を洗い出すことができます。



## 各教科で実践

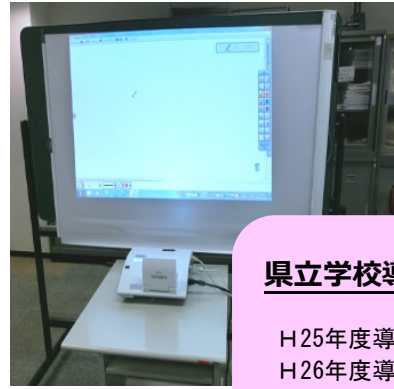
全教科に共通する課題を見いだした後は、その課題改善に直結する単元をそれぞれの教科で洗い出し、一覧にまとめます。そして、どの単元を研究授業として相互に見合うかという計画を立て、授業実践を行い、生徒の思考力・判断力・表現力を高めていきます。

教科の壁を越え、学校改善・授業改善を図る校内研修をお考えの際は、センター出前講座を御活用ください。

センター出前講座 メニュー番号306

# 教育のICT化「県立学校導入電子黒板の活用について」

平成25年度から「長崎県教育ICT化推進事業」に電子黒板機能付き超短投写プロジェクター（以下：県立学校導入電子黒板）が各県立学校に配置されています。県立学校導入電子黒板では提示している資料への書き込みや保存だけでなく、外部映像の取り込みや、複数画面での情報の比較が可能です。導入に伴い、当教育センターでは昨年度、47校58名の先生方に対して『県立高等学校ICT機器活用基礎研修講座』を実施し、ICT機器の効果的な活用についての研修を通して、校内における教育のICT化の推進を図っていただきました。今年度の12月にも平成27年度導入校19校の先生方に対して同様の研修を実施します。各教科で効果的な活用事例は様々ですが、今回はその一部を御紹介いたします。



## 県立学校導入電子黒板

H25年度導入	14校
H26年度導入	33校
H27年度導入	19校
H28年度導入	4校(予定)

## プレゼンテーションソフトでの資料提示

15	12	9	12	7	8
12	8	11	13	13	8
27	28	23	26	24	25
170	172	142	154	133	108

●書き込み可能  
●強調できる

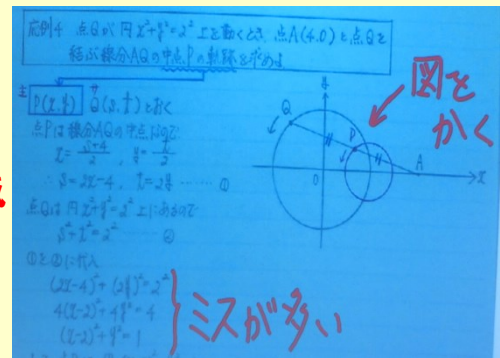
15	12	9	12	7	8
12	8	11	13	13	8
27	28	23	26	24	25
170	172	142	154	133	108

プレゼンテーションソフトを活用しながらの説明のときも、スライド上に書き込むことができます。このとき次のスライドに移動しても書き込みが残らず、新しく書き込んでの説明が可能です。

## 実物投影機との連携



●板書時間の削減  
●多くの解答を提示できる



実物投影機をつなぐと、生徒のワークシートの記入内容をそのまま県立学校導入電子黒板上に映し出すことが可能です。例えば映像に、先生が書き込んだり、生徒が前に出て説明するとき便利です。（板書の時間を減らすことができます。）

特に強調したいときには「領域拡大機能」を用いて細かい部分ははっきりと示すことができます。複数人の解答を映し出すことも可能であり、同時に多くの解答例を学ぶことができることで、生徒の興味・関心が高まり、学力向上及び情報活用能力が高まります。



県立学校導入電子黒板を専用ボードに上から投影している例